



www.fao.org

FAOオンライン、知識、管理その他

主な動き

FAOウェブサイトのページ数は約300万ページあります。2008年にサイトを訪れた人は4,300万人を超えています。

100を超えるデータベースのほか、家畜衛生、世界の統計、水と農業、漁業、各国の現状、緊急予防システム、植物遺伝子情報、衛星画像などの専門別の情報システムが整備されています。

2008年10月には、サイト訪問者数が430万人（総ヒット数1億500万件）を超え、1999年12月に記録された訪問者数の10倍以上となりました。

現在、ウェブサイトでは約3万件の文書、出版物が閲覧できます。2008年だけで新たに3,000件の文書が追加されました。

知識と情報で飢餓に立ち向かう

FAOは、農業、農産物、栄養、持続可能な開発に関する優れた研究拠点です。こうしたテーマに関して他に例を見ない膨大なデータや情報を有し、加盟国やその他の関係者がインターネットを通じて利用できるようにしています。こうした情報は、飢餓のない社会を目指す人々にとって重要な手段となります。

データ・分析のポータルサイト

FAOと加盟国は、農業開発と食料安全保障の達成において、情報は重要な役割を果たすと考えています。情報を備えて飢餓と闘う戦略を進める中で、1989年にFAOは「世界農業情報センター」を設立しました。同センターは、優れた技術情報を効率良く、有効に管理・発信するための手段と方法を定める組織的なシステムです。

設立当初から、センターは信頼性の高い重要な統計や、文書、地図、マルチメディア情報素材のほか、情報共有に関する基準を統一・調和させるためのツールを整備しました。

1989年以降は情報技術の飛躍的な進歩とともに、デジタル環境で情報を管理・発信する作業が複雑化し、特に2つの作業の重要性が高まりました。1つは、他の農業情報ネットワークとの協力を進めるためにFAOの情報資源を利

用しやすくすること。もう1つは、FAO加盟国が自力で食料や農業に関する情報を管理・利用できるよう能力向上を支援することです。



FAOデータの有効な利用方法について教える研修会

FAOウェブサイト

FAOのウェブサイトでは、主に以下の分野に関して何千もの出版物や技術文書を閲覧することができます。

- 農業、漁業、栄養、林業
- 貿易動向、国別情報、食の安全、森林破壊など個別の問題
- 実施規範、国レベルで使用する双方向ツール、早期警戒・防災システム
- 地図やチャートなどのデータ、その他何千ものマルチメディア情報素材

FAOウェブサイトの情報は、加盟国だけでなく、エコノミスト、貿易・農産物の専門家、大学・研究機関、商業・農業会議所、農学者、栄養学者、政府の計画担当者、開発専門家、学

生からも高い評価を受けています。

2005年9月には「Ask FAO」というコーナーが新たに加われました。2008年末現在で、5,000件以上の質問が寄せられ、FAO職員が回答しています。このほか、ブログやウィキを介した双方向の情報共有サービスについても検討が進められています。

2008年にはホームページと各コーナーのトップページが一新され、アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語で閲覧できるようになりました。また、サイト全体で多言語サービスをいっそう拡充するための作業も進められています。

FAOウェブサイトへのアクセス数（1997～2008年）

訪問者数		ヒット数	
1997	774,309	1997	17,581,566
1998	1,281,340	1998	21,854,555
1999	3,057,056	1999	69,993,249
2000	5,497,002	2000	128,499,017
2001	9,038,768	2001	235,263,543
2002	15,005,028	2002	364,388,018
2003	20,797,412	2003	506,263,307
2004	23,459,480	2004	583,174,283
2005	28,159,277	2005	797,055,823
2006	40,947,558	2006	1,117,296,621
2007	42,475,579	2007	1,114,349,312
2008	43,369,632	2008	1,086,760,642

1997年以降、FAOウェブサイトの訪問者数、ヒット数は急増しています。

出所：FAO

情報格差の解消と情報共有のための基準づくり

情報の統合、検索、共有が効果的に行われるためには、国際的に認められた基準が必要です。FAOは20年以上にわたり、農業開発と食料安全保障分野での情報管理の基準づくりを先頭に立って行ってきました。現在は加盟国および他のパートナーと協力して、農業情報の管理と共有を促進するための国際基準と手続きを策定し、普及に努めています。

農村地域は、都市部に比べて現代の通信技術が利用しにくく、「農村地域の情報格差」と呼ばれる問題になっています。FAOではこの問題を受け、2003年「農村地域の情報格差解消（Bridging the Rural Digital Divide）」事業を立

ち上げました。この事業では農業開発と食料安全保障の実現を支援する中で、情報格差の解消に努めています。

2005年に開かれた「世界情報社会サミット」では、FAOが「電子農業（e-agriculture）」という1つの情報通信技術分野のリーダーに指名されました。電子農業は、新しい技術を活用した農業・農村開発の促進に焦点を置いた新興分野です。2006年、FAOは電子農業の専門知識を結集させたグローバルコミュニティを設立しました。コミュニティには現在150カ国以上から約5,000人のメンバーが参加しています。

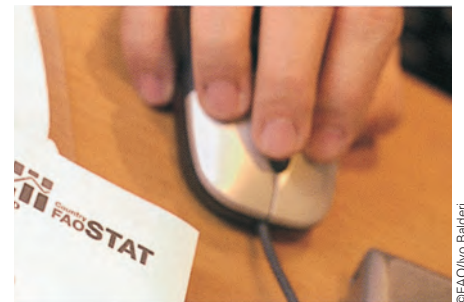
主な専門別情報システム

- FAO統計データベース：<http://faostat.fao.org>
- 越境性動植物病害虫緊急予防システム：<http://www.fao.org/empres/>
- 世界食料農業情報早期警報システム：<http://www.fao.org/gIEWS>
- 世界食料安全保障需給地図イニシアティブ：<http://www.fivims.net>
- FAO各国状況・分布情報（FAO Country Profiles and Mapping Information System）：<http://www.fao.org/countryprofiles>
- 国際農業科学技術情報システム：<http://www.fao.org/agris/>
- FAO文書レポジトリ（FAO Corporate Document Repository）：<http://www.fao.org/documents>
- 各テーマのeラーニング教材を備えた、情報管理リソースキット（Information Management Resource Kit）：<http://www.imarkgroup.org>

情報へのアクセスを高める

FAOウェブサイトは農業、林業、漁業、持続可能な農村開発、経済、食料、栄養に関する総合的な情報源です。ウェブサイトを通じて政策立案者や専門家にFAOの豊富な知識と専門能力を提供し、困難な課題の解決策を見つける手助けをします。また、広く社会やメディアに食料・農業分野の重要課題について知らせる役割も果たしています。

専門別情報システムの多くはCD-ROMでも利用できます。ウェブサイトではグーグルによる検索も可能で、情報がさらに利用しやすくなっています。



インターネットによって、誰もが自由にデータを利用することができます。

国際協力を進める

FAOのもう1つの重要課題として、活動を世界的に拡大するために国際協力関係を構築し、推進することがあります。パートナーとの相乗効果により、FAOの豊富な情報がより広く発信、活用されることになります。主要活動のそれぞれにおいて、FAOは各国政府、団体、大学、開発機関など、1つあるいは複数のパートナーと協働します。



国際連合食糧農業機関（FAO）
Viale delle Terme di Caracalla
00153 Rome, Italy

電話：(+39) 06 57051
ファクス：(+39) 06 57053152
Eメール：FAO-HQ@fao.org

報道機関問い合わせ先：
電話：(+39) 06 57053625
ファクス：(+39) 06 57053729